

肝臓移植に関する作業班・腎臓移植に関する作業班合同会議
議 事 次 第

日時：平成18年3月1日（水）

16:00～17:00

場所：厚生労働省共用第7会議室

1 開 会

2 議 事

(1)肝腎同時移植希望者（レシピエント）選択基準について

(2)その他

3 閉 会

肝臓移植に関する作業班・腎臓移植に関する作業班
合同会議
配付資料一覧

資料 1 肝腎同時移植について

資料 2 肝腎同時移植希望者（レシピエント）選択基準の見直し（案）

参考資料 1 肝臓移植希望者（レシピエント）選択基準（案）

参考資料 2 腎臓移植希望者（レシピエント）選択基準

参考資料 3 第22回公衆衛生審議会疾病対策部会臓器移植専門委員会
（平成11年10月27日）の資料（抜粋）

肝腎同時移植について

1. 現状

肝移植を必要とする肝疾患患者の中には、不可逆的な腎不全の合併症例があり、肝腎同時移植が望まれる。現状では、両臓器の移植を希望して日本臓器移植ネットワークに登録しているも、両者で緊急性の順位に違いがあると、肝腎同時移植を受ける機会は極めて稀となる。

- ・ 肝臓及び腎臓移植希望登録者について(別添1)
- ・ 肝臓移植希望者と腎臓移植希望者の待機日数等の比較について

	移植希望者	平均待機日数	移植件数
腎臓移植	12,202 人	2656.7 日	160 件(平成 17 年)
肝臓移植	106 人	579.4 日	4 件(平成 17 年)

出典:(社)日本臓器移植ネットワーク調べ(平成 18 年 1 月 31 日現在)

2. 脳死肝移植適応評価委員会委員長からの要望(別添2)

3. 第 25 回移植関係学会合同委員会(平成 17 年 5 月 31 日)及び第 21 回臓器移植委員会(平成 17 年 9 月 29 日)における議論(別添3)

4. 対応(案)

肝臓移植希望者(レシピエント)選択基準で選ばれた移植希望者(レシピエント)が肝腎同時移植の待機者である場合であって、かつ、臓器提供者から肝臓及び腎臓の提供があった場合には、当該待機者が腎臓移植待機リストで下位であっても、当該待機者に優先的に肝臓及び腎臓を同時に配分する。上記要望について、肝臓移植に関する作業班・腎臓移植に関する作業班を合同開催し、別添のとおり検討する。

肝臓および腎臓移植希望登録者について

日本臓器移植ネットワークに肝臓および腎臓の移植希望登録をされた方のうち、

- ① 現在、肝臓・腎臓とも移植を希望し登録している方・・・1名
原疾患 肝臓：二次性胆汁性肝硬変
腎臓：多発性嚢胞腎

- ② 肝臓を移植した後に、現在、腎臓移植を希望し登録している方・・・1名
(生体肝移植済)
原疾患 肝臓：先天性肝・胆道疾患
腎臓：多嚢胞腎

- ③ 腎臓を移植した後に、現在、肝臓移植を希望し登録している方・・・0名

<参考>

これまでに肝臓および腎臓の移植希望登録をされた方・・・5名

転帰の内訳

上記①・・・1名

上記②・・・1名

海外にて肝臓・腎臓移植済・・・1名

生体肝移植後、死亡・・・1名

生体肝移植後、腎臓の移植希望登録を取消・・・1名

平成18年2月27日

社団法人日本臓器移植ネットワーク 医療本部 調べ

平成17年3月30日

日本臓器移植ネットワーク医療本部
野本亀久雄 本部長殿
菊地 耕三 副本部長殿

脳死肝移植適応評価委員会
委員長 藤原 研司

肝腎同時移植についてのお願い

肝移植を必要とする肝疾患患者の中には、不可逆的な腎不全を合併している症例があり、その際、肝腎同時移植が望まれます。

しかし、両臓器の移植を希望して日本臓器移植ネットワークに登録していても、両者で緊急性の順位に違いがあると、肝腎同時移植を受ける機会は極めて稀となります。

そのため、かかる事例については、肝移植レシピエントの順位が高い場合に限って、優先的に1腎を配分されれば問題は解決されます。第三者の善意で提供された臓器の最良の活用にも繋がるものと考えます。

この肝腎同時移植の実現に向けて、貴本部から厚生科学審議会臓器移植委員会の審議に挙げるべく依頼書をご提出いただくようお願い申し上げます。

- 第25回移植関係学会合同委員会(平成17年5月31日)における主な議論
 - ・ 膵腎同時移植の場合、膵臓の使用ができず、希望すれば腎臓だけでも移植できるという症例があり、患者に腎臓が移植されたことがあったが、現場では混乱を招いた。肝腎移植の場合、肝臓が使えなくなった場合、腎臓だけでも移植できるかどうかの規定を明確にしておく必要がある。またこれに関してコーディネータが支障をきたさない単純なルールを作成しておく必要がある。
 - ・ 欧米では、肝腎同時移植は同一ドナーからの成績がよく、日本でも道が開けるように計らっていただきたい。
 - ・ 肝不全で腎臓だけを移植することはまずないだろう。この点は膵腎同時移植の場合と全く異なる。

- 第21回臓器移植委員会(平成17年9月29日)における主な議論
 - ・ これまで、肝臓と腎臓が同時に悪くなった方は、生体肝移植と生体腎移植を受けてきた。(生体肝移植を先に行って、生体腎移植を後に行う。)
 - ・ 平成17年9月現在、日本臓器移植ネットワークに肝臓移植も腎臓移植も登録されている方は2名であるが、今後肝腎同時移植が行えるシステムができれば、潜在的ドナーが登録してくると考えられる。
 - ・ 肝腎同時移植のみならず、複数臓器移植のルール(肝臓小腸同時等)について検討すべきである。
 - ・ 複数臓器移植のルールは、一律に決めることは困難で、ニーズがはっきり見えてから議論するべきである。

肝臓移植希望者(レシピエント)選択基準の見直し(案)

1 適合条件

(1) ABO 式血液型

ABO 式血液型の一致(identical)だけでなく、適合(compatible)の待機者も候補者として考慮する。

(2) 前感作抗体

当面、選択基準にしないが、必ず検査し、登録する。

(3) HLA 型

当面、選択基準にしないが、必ず検査し、登録する。

(4) 搬送時間(虚血許容時間)

臓器提供者(ドナー)の肝臓を摘出してから 12 時間以内に血流再開できること。

2 優先順位

(1) 医学的緊急性

予測余命が1か月以内	9点
予測余命が1か月～6か月以内	6点
予測余命が6か月～1年以内	3点
予測余命が1年を超えるもの	1点

ただし、先天性肝・胆道疾患及び先天性代謝異常症については、肝臓移植が治療的意義を持つ時期及び患者の日常生活に障害が発生している状態を考慮の上、上表に規定する点数のいずれかを用いることがある。

(3) ABO 式血液型

ABO式血液型が一致	1.5点
ABO式血液型が適合	1.0点

3 具体的選択法

(1) 移植希望者(レシピエント)の選択順位については、2 の(1)、(2)の合計点数が高い順とする。ただし、これらの条件が同一の移植希望者(レシピエント)が複数存在した場合は、待機期間の長い者を優先する。

(2) (1)で選ばれた移植希望者(レシピエント)が肝腎同時移植の待機者である場合であって、かつ、臓器提供者(ドナー)から肝臓及び腎臓の提供があった場合には、当該待機者が腎臓移植待機リストで下位であっても、当該待機者に優先的

に肝臓及び腎臓を同時に配分する。

(3) (2)により、肝腎同時移植希望者(レシピエント)が選定されたものの、臓器摘出手術の開始以降に肝臓が移植に適さないことが判明した場合には、腎臓移植希望者(レシピエント)の選択をやり直すことなく、肝臓移植希望者(レシピエント)に腎臓のみを配分する。

4 その他

ABO 式血液型の取扱いや優先順位の点数付け等、当基準全般については、今後の移植医療の定着及び移植実績の評価を踏まえ、最低毎年1回は見直すこととする。

また、将来ネットワークが整備され、組織的にも機能的にも十分機能した場合は、改めてブロックを考慮した優先順位を検討することが必要である。

肝臓移植希望者(レシピエント)選択基準

1 適合条件

(1) ABO 式血液型

ABO 式血液型の一致(identical)だけでなく、適合(compatible)の待機者も候補者として考慮する。

(2) 前感作抗体

当面、選択基準にしないが、必ず検査し、登録する。

(3) HLA 型

当面、選択基準にしないが、必ず検査し、登録する。

(4) 搬送時間(虚血許容時間)

臓器提供者(ドナー)の肝臓を摘出してから 12 時間以内に血流再開できること。

2 優先順位

(1) 医学的緊急性

予測余命が1か月以内	9点
予測余命が1か月～6か月以内	6点
予測余命が6か月～1年以内	3点
予測余命が1年を超えるもの	1点

ただし、先天性肝・胆道疾患及び先天性代謝異常症については、肝臓移植が治療的意義を持つ時期及び患者の日常生活に障害が発生している状態を考慮の上、上表に規定する点数のいずれかを用いることがある。

(3) ABO 式血液型

ABO式血液型が一致	1.5点
ABO式血液型が適合	1.0点

3 具体的選択法

移植希望者(レシピエント)の選択順位については、2 の(1)、(2)の合計点数が高い順とする。ただし、これらの条件が同一の移植希望者(レシピエント)が複数存在した場合は、待機期間の長い者を優先する。

4 その他

ABO 式血液型の取扱いや優先順位の点数付け等、当基準全般については、今後の移植医療の定着及び移植実績の評価を踏まえ、最低毎年1回は見直すこととする。

また、将来ネットワークが整備され、組織的にも機能的にも十分機能した場合は、改めてブロックを考慮した優先順位を検討することが必要である。